

光輝寮だより

「大切なもの」



光輝寮
新任寮長

柴田和俊

この度、施設長に就任しました柴田和俊です。

縁あって光輝寮で子ども達と一緒に生活するようになってから、瞬く間に25年が過ぎました。その間に子ども達を取り巻く環境は目まぐるしく変化しました。「高機能化」「多機能化」「地域分散化」といった施設に求められる役割も多岐にわたるようになりました。

光輝寮は70年以上にわたる長い歴史があり、地域の人々や小、中、高等学校また、児童相談センターなど関係機関や、ボランティアの皆様等、本当に多くの方に支えられ地域に根差した施設として運営

されてきました。そのような中、本体施設の老朽化にともない建て替えを迫られています。時代やそれに伴う環境が変化したとしても「時代に即して変わらなければいけないもの」と「光輝寮として変えてはならないもの」があるのではないかと感じています。

子ども達は、それぞれが様々な家庭背景を抱え、施設で生活せざるを得ない状況にあります。毎日を懸命に生きています。全てに満足して生活しているわけではなく、時に我慢や葛藤も抱えているはずです。それでも私は、子ども達（今現在入所している子だけでなく、これまでに巣立ち、

社会で元気に頑張っている大勢の子ども達）にとって、光輝寮が「安心のできる場所」であり続けたいと強く願っています。その為にも、たとえ泥臭くても子どもと真剣に向き合い、子ども達と過ごす毎日の生活のなかで共に笑い、共に喜び、共に悲しみ（時には必要があつて叱ることもありますが・・・）そんな毎日を「一緒に」過ごしていくなかで、職員一人ひとりが自らの経験や思いを伝え、子ども達の健やかな成長に繋がっていくことが出来たらと考えます。そして、支援者である職員一人ひとりが子ども達と一緒に成長していくことができる職員集団を目指したいと考えます。

「人」という文字は、2本の線が互いを支え合つて成り立っています。人は一人で生きていくことはできません。子ども達には「周囲からの数え切れないほどの思いやりに支えられて生きている」という事を感じ取ることで、周囲に感謝をする心を育み、身に付け、自分だけでなく他人

にも優しくあつて欲しいと願っています。そして、いずれ大人になって施設での生活経験を振り返った時「光輝寮で大切なものを学べた」と皆が胸を張って言えるような・・・そんな施設を、これからも目指したいと考えます。

まだまだ若輩者ではありますが、子ども達の生活を取り巻く様々な難題や課題に対しても、子ども達の最善の利益を守るために尽力していきたいと思えます。今後ともご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

